

# インド太平洋時代のアンカー：インドの可能性を探る

## インドの外交政策と地政学上の立ち位置

堀本武功(ほりもと・たけのり)

岐阜女子大学客員教授／日印協会インド研究センター上席研究員

前尚美学園大学教授/京大大学院特任教授



R U S S I A

KAZAKHISTAN

MONGOLIA

NORTH KOREA

JAPAN

C H I N A

SOUTH KOREA

TURKEY

UZBEKISTAN

KYRGYZISTAN

TURKMENISTAN

TAJIKISTAN

GEORGIA

ARMENIA

SYRIAN

CYPRUS

ARAB REP

LEBANON

ISRAEL

IRAN

AFGHANISTAN

JORDAN

KUWAIT

PAKISTAN

BAHRAIN

QATAR

UNITED ARAB EMIRATES

OMAN

YEMEN

SAUDI ARABIA

NEPAL

BHUTAN

INDIA

BANGLADESH

MYANMAR

LAOS

THAILAND

CAMBODIA

VIETNAM

TAIWAN

PHILIPPINES

BRUNEI

MALAYSIA

SINGAPORE

INDONESIA

PAPUA

NEW GUINEA

North Pacific Ocean

Arabian Sea

South China Sea

Andaman Sea

Philippine Sea

Indian Ocean

Asia



# 要旨

➡ 総合的な把握ができないか。

👉 過去・現在・未来

インド近現代史、民主主義、インドの大国化と外交・内政と民主主義、日印関係の現状と今後、グローバルなパワー・シフト？

👉 今後の展望

インド太平洋とユーラシア大陸の地域秩序をめぐる米中の覇権争い。取りあえず、2030年頃まで。

# 1. インド太平洋とユーラシアの地域秩序をめぐる確執

① 歴史的にみれば、覇権国(+地域機構)が地域秩序を維持。ローマによる平和(Pax Romana)から始まり、英国による平和、米国による平和など。

② 第二次大戦後のユーラシアとインド太平洋

☞ 諸機構があったヨーロッパ。米欧ソ(露)の対抗関係の中で緊張・対立を伴う秩序。

NATO、EU(欧州連合)⇔ワルシャワ条約機構

☞ インド太平洋には機構がない。

第二次大戦後～80年代は、米国の覇権が秩序維持。21世紀に入り、中国の台頭とこれにともなう米国の相対的な弱体化。

# 2. インド太平洋における米中と日印

## 2.1 米国

21世紀に入り、中国との関与と警戒対応を進め、市場化と民主化に期待したが、失敗。

①2010年代からは、国家安全保障戦略文書などで(2017、21、22)中国を「戦略的競争相手」に位置付けを修正

②基本的な傾向：2000年代以降の変化  
国益優先。TPPからの離脱、関与政策の放棄、  
AUKUS, オフショア・balancing、Quad  
(クワッド) —Quad1.0 (2007)、次いで  
Quad2.0 (2017)

👉米国：ベトナム戦争、アフガン戦争の失敗

👉ジョン・ミアシャイマー(奥山真司訳)『大国政治の悲劇』五月書房、2014.

③バイデン政権のインド太平洋政策：安全保障はQuad、経済政策ではIPEF(インド太平洋経済枠組)

インド太平洋の経済枠組み ※はASEAN加盟国



出所：2022.5.24 『朝日新聞』

## 2.2 中国

習近平「中華民族の偉大な復興」政策と二つの100周年(2021と2049)。

### ①「戦狼外交」(2017年頃から盛んに)

韜光養晦からの離脱。「中国の軍事活動と近年の戦狼外交をみると、米国とのパワー均衡をほぼなし遂げたとき、優しい覇権国になる可能性はうすい」

(Char, J. 2021. [‘China’s military budget: no need for alarm yet’](#). *East Asia Forum*, 2021)

### ②中国は、中所得国の罨を回避し、人口ボーナスを享受できるのかは

疑問(The Brookings report *China 2049*, 2020 predicts China economic growth rate slow to 2.7–4.2%). 3 children policy in May 2021.

### ③思惑通りの中国

ロシアの中国依存の高まり。米太平洋軍デービッドソン司令官は、「六年以内に中国が台湾を侵攻する可能性がある」(2021, 3. 9) 米上院軍事委員会公聴会で証言

👉 中国の飴(高い経済成長)・ムチ(参政権なし)が持続できるか？

👉 中国の超大国化をめぐるっては、過小評価も過大評価も避けた方が無難だが、台湾侵攻が起きれば、東アジアと東南アジアの緊張が一挙に高まる。

### 3. 日印・日印関係の意味合い

緊密な両国関係が当分の間、続く可能性が高い

※日本の防衛費は1976からGDPの1% (1976) ⇨2%?

	2020GDP兆米ドル (世銀)	2020防衛支出億 米ドル	(SPPRI スtockホル ム国際平和研究所)
①米国	20.94	①米国	7 7 8 0
②中国	14.72	②中国	2 5 2 0 (E)
③日本	5.06	③インド	7 2 9
④ドイツ	3.81	④ロシア	6 1 7
⑤英国	2.71	⑤英国	5 9 2
⑥インド	2.62	⑥サウジ	5 7 5
⑦フランス	2.60	⑦ドイツ	5 2 8
⑧イタリア	1.89	⑧フランス	5 2 7
⑨カナダ	1.64	⑨日本	4 9 1
⑩韓国	1.63	⑩韓国	4 5 7

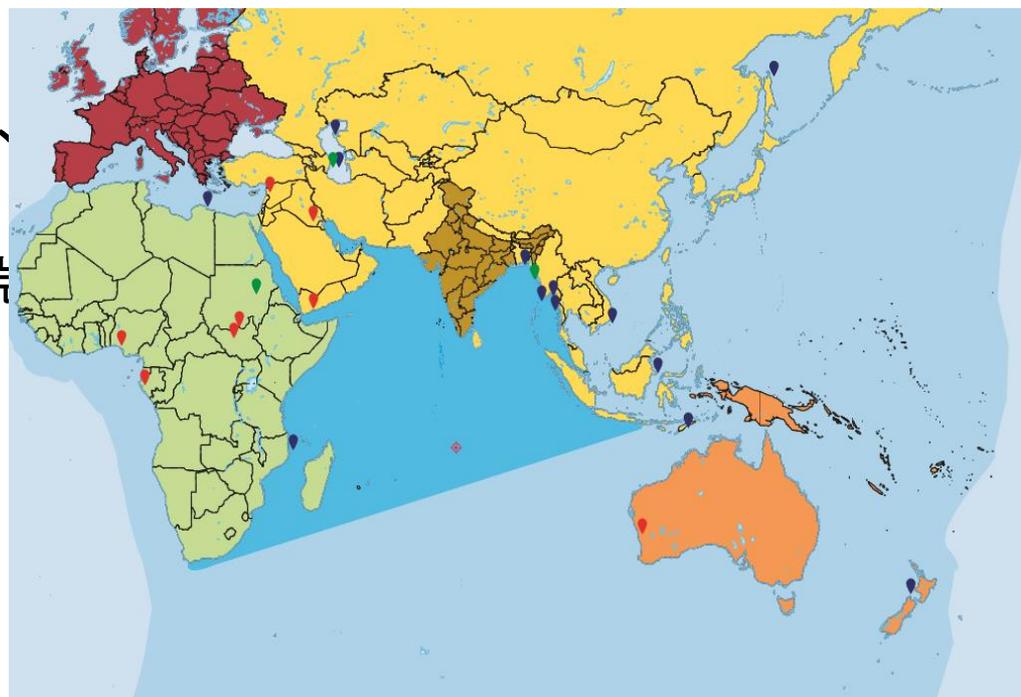
⑪ロシア1.48 ウクライナ0.16/59(E) Note: E means estimate.

## 3.1 インドの外交的利害

インドの利害地域。濃青が一義的地域、薄青が第二義的。

①インドは、中国との関係を安定化させ、実現を指向。大国になるまでは、戦略的自律外交か？ 現与党のインド人民党  
S. Jaihankar, *The Indian Way Strategies for an Uncertain World*, 2020.

👉 インドの非同盟政策も、戦略的自律外交も≡国益のため。  
歴史的な経緯。ムガル帝国、英領インドによる支配



出所: Indian Navy, *Ensuring Secure Seas: Indian Maritime Strategy*, 2015

👉 当面、多極化狙いか。

👉 米国の「オフショア・balancing論」には組みしない。要するに、「ジュニア・パートナー」にはならない。

## 3. 2 インドの政治的な傾向:「親ソ反米」と報道・民主主義

なぜ、インドはロシア絡みの国連表決に棄権するのか？

👉 米調査機関ピュー・リサーチ・センターの世論調査  
インド人の米口好感度(2017の49対47→2020には、ともに49%)

👉 民主主義

→英フリーダムハウス「世界の自由度2021」:前年の「自由」から一部自由へ。

→Economist誌調査部門Economic Intelligence Unitは、インドの民主主義を7.92(2014)から6.61(2020)に格下げした。167ヶ国中、27位から53位に後退。「選挙による専制政治」(Electoral autocracy)と表現

—インドのマスコミの自由度。国際組織の「国境なき記者団」が2020年についておこなった結果。180ヶ国中、インド150位。ロシア155位、中国175位。日本71位。国境なき記者団の2002年調査では、80位

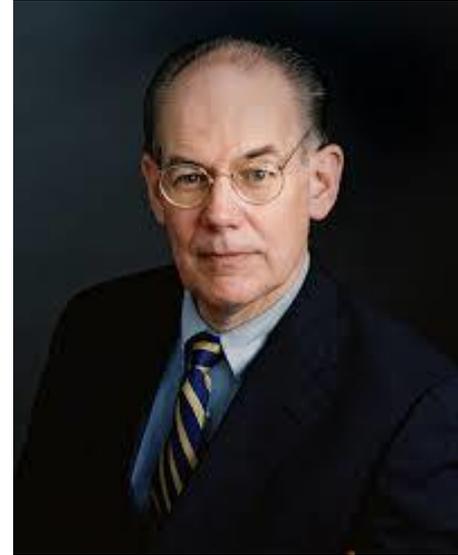
## 👉 インド・マスコミのモディ政権に対する忖度報道?

新聞などのメディアに政府広告が主要な収入財源→政権が好まない報道回避  
—中央政府による世論操作?政府が表立ってロシア支持をしないが、国連での棄権≡肯定的な捉え方をする傾向。ミアシャイマーの米国責任論を転用とも言われる。

—2010年代以降のインド内政については、インド人民党が掲げる「ヒンドゥー多数派主義」(Hindu Majoritarianism)の台頭。人民党が2014年と2019年の総選挙で連続勝利。モディ政権は民主主義を唱えるが、偏狭で民族主義的な傾向が強く、少数意見が阻害→報道の自由との関連

→三輪博樹「第1章 2010年代のインド政治—インド人民党による一党優位状況の成立」(堀本武功・村山真弓・三輪博樹編『これからのインド—変貌する現代世界とモディ政権』東京大学出版会、2021)

→政策的なパフォーマンス不足を宗教でカバー。



## 👉 中東諸国の反発

インド人民党報道官を務めていたヌプール・シャルマ氏は5月末に地元テレビの討論番組で「(イスラム教の聖典)コーランは世の中が平等だと述べているが、そんなバカげたことは言うな」と発言。

## 3.2 日本

### ①日本は、歴史的にはパートナー外交

☞ 日英同盟（1902-23）、日独伊三国同盟（（1940-43）、日米同盟（1951～）。国力不足もあるが、トクな外交だった。

☞ 蒙古襲来（13世紀）と米軍占領だけ。

⇔ インドとは対称的（300年以上のムガル帝国支配と100年の英国支配）

### ②パートナーを必要とする外交だが、米国の相対的なパワー衰退を受け、新たな対応が必要になっている。

☞ 吉田ドクトリン「軽装備・経済外交に基づく国家方針・国家戦略

☞ 米国のオフショア・バランスにどう対応するか。防衛費の増額？

### ③日本外交におけるインドの位置付けを考える必要性

堀本武功「日印関係の回顧と展望：共存する緊密さとズレ」『現代インド・フォーラム』

[現代インド・フォーラム2022年春季号 No.53 - 公益財団法人 日印協会 \(japan-india.com\)](http://japan-india.com)

### ④世界の多極化には、アンビバレント？

## 4. 今後の展望

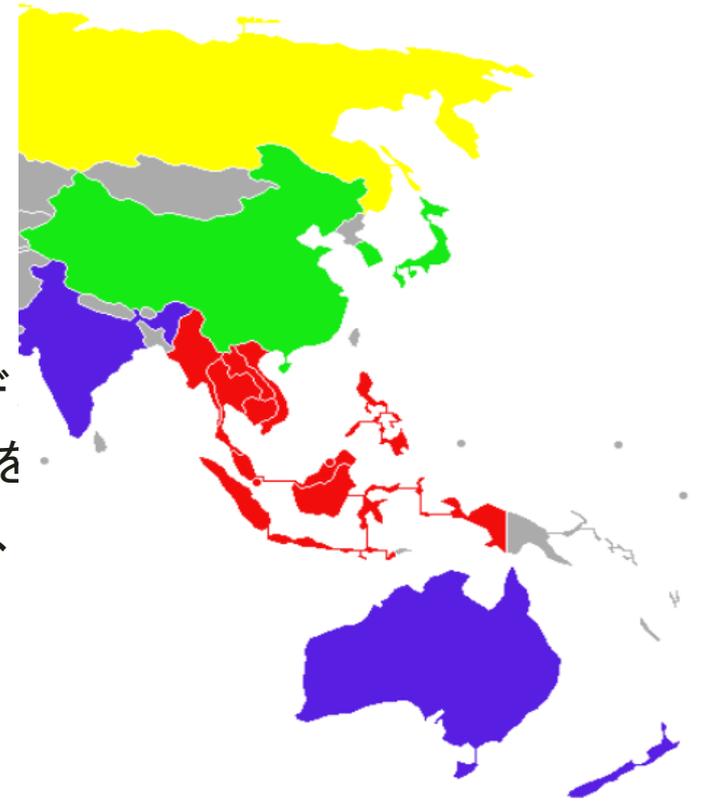
(1) 地域秩序の維持・構築が不可欠。

RCEP、TPP、FOIP、IPEF。

台湾有事は一大事。

日米首脳会談(5月23日)後の共同記者会見で、バイデ  
台湾有事に関連して、米記者からの「中国が台湾を  
侵攻した場合、米国の軍事的に関与」と尋ねられ、  
☞「イエス。それが我々のコミットメント」

☞安全保障だけでなく、民主主義も。



(2) 経済☞安全保障☞地域共同体 (EUまでには2世紀を要した)

徐々に、一步一步、進める？

(3) 2022年11月にインドネシアでG20サミット (主要20ヶ国・地域  
首脳会議) 開催。バイデン政権がどんなビジョンを示すのか。

# 【インド・ロシアなどの関連情報リスト】

- 伊藤 融「「盟友」ロシアのウクライナ侵攻に苦悩するインド」22. 3. 24 [国際情報ネットワーク分析IINA](#)
- 溜 和敏「インドのインド太平洋海洋イニシアティブ」22. 3 <https://www.jiia.or.jp/research-report/indo-pacific-fy2021-05.html>
- 中溝和弥「ウクライナ戦争とインド——「漁夫の利」戦略の行く末」『新潮のフォーサイト』22. 4. 21  
[ウクライナ戦争とインド——「漁夫の利」戦略の行く末 : 中溝和弥 | 記事 | 新潮社Foresight\(フォーサイト\) | 会員制国際情報サイト \(fsight.jp\)](#)
- 長尾 賢「ウクライナ侵略でロシア寄り態度の微修正を図るインド」『ウエッジ』22. 3. 30  
[ウクライナ侵略でロシア寄り態度の微修正を図るインド WEDGE Infinity\(ウエッジ\) \(ismedia.jp\)](#)
- 伊豆山真理「【地球コラム】21世紀版合従連衡の行方」JIJI COM 22. 6. 10  
[【地球コラム】21世紀版合従連衡の行方:時事ドットコム \(jiji.com\)](#)

## 堀本武功の主な講演・論評

- 3月19日(金) 『朝日新聞デジタル』論評「岸田首相が向き合う全方位外交のインド ロシア離れを迫れるか」  
[https://digital.asahi.com/articles/ASQ3M65LZQ3MUHBI00S.html?iref=pc\\_ss\\_date\\_article](https://digital.asahi.com/articles/ASQ3M65LZQ3MUHBI00S.html?iref=pc_ss_date_article)
- 4月5日「日印関係の回顧と展望：共存する緊密さとズレ」『現代インド・フォーラム』[現代インド・フォーラム2022年春季号 No.53 - 公益財団法人日印協会 \(japan-india.com\)](#)
- 4月11日(月) [インタビューシリーズ「ウクライナ危機を見る複数の眼」：南アジア（堀本武功教授） - 東京カレッジ \(u-tokyo.ac.jp\)](#)
- 4月26日(火) テレビ朝日「木下洋子のワイトスクランブル：ウクライナめぐりロシアに「非難」と「協力」のダブルスタンダード今後の情勢の命運を握るアジアと大国インド」の狙い(12:00-1:00)のコメンテーター
- 5月7日(土) Keynote Address “Peace and Stability of Indo-Pacific Region: What would be the Functions of Japan-India Relations” in the Symposium on India and Japan in Free and Open Indo-Pacific on 7<sup>th</sup> and 8<sup>th</sup> May organized by India-Japan Chamber of Commerce & Industry and the Consulate General of Japan
- 5月22日(日) Quad Summit 2022 | Japanese Professor, Takenori Horimoto EXCLUSIVE | Latest News | CNN News18 Live
- 6月1日(水) 「表紙インタビュー 大国インドの国際関係上の立ち位置を知る—なぜインドはロシアに対する国連決議に棄権したのか?—」『改革者』2022年6月号